

西仙北中学校第2期生 卒業式 挙行

3月9日(日)に第2期生の卒業証書授与式が、68名の卒業生、保護者の皆様、地域の皆様をお迎えし厳かに行われました。特に、全校合唱「友～旅立ちのとき～」 「大地讃頌」は、美しい声が体育館いっぱいに響き渡りました。

門送り(歓送)では、卒業生に科学部の応援団からエールがあり、そのエールとクラッカーの音とともに学舎から旅立ちました。

**2年生 友輪学年 修学旅行
ハイサイ ハイタイ 行ってきました**

3月12日(水)から3日間、77名の2年生と職員7名が、沖縄の修学旅行に行ってきました。ブログでそれぞれの場面を同時報告しましたが、3日間を簡単に紹介いたします。(「ハイサイ」(男) 「ハイタイ」(女)は沖縄弁で「おはようございます。」です。)

□第1日目 3月12日(水)**7:00 学校集合**

早い生徒は、6時半過ぎにはすでに学校に来ていました。

7:30 学校出発

多目的ホールに集まって、出発式を行い、バス2台で出発しました。

10:50 仙台空港到着

高速道路では、山内と長者原ICにトイレ休憩しました。

11:50 仙台空港出発(全日空463)

昼食弁当を受け取って、手荷物検査、身体チェックを受けて飛行機に乗り込みました。身体チェックのために、男子はベルトをはずして荷物に入れていましたが、それを忘れて、那覇空港に着いてからベルトをした男子生徒がいました。途中、飛行機の左側に富士山がきれいに見えました。那覇空港に着陸して、機内アナウンスで「大仙市立西仙北中学校の皆さん、沖縄での修学旅行が素晴らしいものになるよう、お祈り申し上げます。」とあり、本校生徒は一斉に拍手をしました。

15:05 那覇空港到着

むっとするのか、と気温のことが一番頭にありましたが、蒸し暑いという感覚よりは、下着を夏用にしていったせいか、ひんやりとした那覇空港でした。

15:40 那覇空港出発

いよいよ那覇中部観光1号車、2号車に分か

れて、首里城に向かいました。

16:10 首里城到着(記念撮影)

首里城では、小雨が降っており、城内に入りすぐに学級写真を撮影しました。雨が降っていたので、15秒だけ傘をたたみ、その間に撮影しました。雨降りの学級写真は人生初めての体験でした。ショッキングレッドがまぶしい首里城内を散策、鑑賞し、琉球文化について理解を深めました。

17:10 首里城出発

雨が降ったり止んだりの状態で、国際通りに向かいました。

17:40 班別自主研修開始

国際通りでは、雨も小休止でしたが、空は雲に覆われ、少し薄暗い中での班別自主研修となりました。市場の2階の食堂が安くて美味しいということで、生徒たちを追いかけながらも市場を目指しました。

市場に着いて、夕食です。メニューは「ソウキソバ」「島焼きそば」「ラフティー」「アグー豚」などでした。生徒も別のテーブルで夕食。「てびち定食(一般的に豚足の煮込みと言われています。)」をほおばっている画像がブログにアップされていました。

19:30 ほしぞら公民館集合

いよいよ本日のメインである糸満市中学生との再会交流です。午後7時半過ぎに全員が自主研修を終えて、公民館に集合しました。公民館といっても、市内のど真ん中にある3階建ての立派な建物でした。

19:45 糸満市立中学校との交流会

はじめに、糸満市中学生8人から「平和学習の一環として、沖縄県公文書館が所蔵する沖縄戦映像フィルム」を元に、解説がありました。8人の中学生が一人ずつナレーターを務めてくれました。この映像は、すべてアメリカ軍が残したもので、「沖縄県公文書館」「1フィート運動の会」「沖縄県平和祈念資料館」など県内各機関が収集したフィルムの一部を私たちに紹介してくれました。

昭和20年3月26日に、アメリカ軍がついに慶良間諸島へ上陸した様子、上陸の前に艦砲射



撃が行われた様子、橋の下の住民が捉えられた様子、アメリカ軍が民家を焼き払った様子、壕の中から出ようとした少年兵が捉えられた様子、高校生くらいの少女が「撤退する日本兵と行動をとるのを拒んだため、日本兵に足首を切断された」様子、爆撃を受けて死亡した人々の様子など、アメリカ側の目から戦争の実態が映し出されていました。

映像と解説が終わってから、沖縄の楽器「三線（サンシン）」を弾き、「ていんさぐぬ花」という歌を8人が披露してくれました。この歌は、沖縄でもっとも有名な親から子どもへの教訓歌です。一番だけ紹介します。



- 1 ていんさぐぬはなや ちみさちにすみてい
うやのゆしぐとや ちむにうみすみり

意味：ハウセンカの花は 爪先に染めるけど 親のゆし言(教え)は 心に深く染めましょう



この後、私が、お礼の言葉と秋田県の作曲家平岡均之(神代出身)の作った「若葉」を歌いました。

続いて、短い時間でしたが、それぞれの学級で再会の喜びを交わし、写真を撮影しました。終わりの時間が迫っていましたが、最後に、2年生全員で合唱「友～旅立ちのとき～」を歌いました。



そして、ステージ上がった8人の糸満中学生から、一言ずつお話をいただきました。最初の男子が涙声で、「再会できてうれしいです。ありがとうございました。」と話があり、他の7名も感極まり、涙涙のスピーチとなりました。別れるのがつらい、そんな気持ちに双方がなったときに、佐々木航平さんが、野球部員をステージにあげて、「桃色クローバーZ」の「行



くぜっ快盗少女」の踊りを披露してくれました。

2回目は、糸満市の中学生と一緒に踊りました。そして最後の最後に、感謝の言葉を述べ、交流会が終わりとなりました。予定の時間よりも15分間延長となりましたが、何より会の充実がありがたかったです。



20:50 南西観光ホテル到着

室長会議を行い、それぞれの部屋で入浴、就寝しました。

□第2日目 3月13日(木)

6:30 起床 7:00 朝食バイキング

朝食は、畳の部屋の奥にフローリングの部屋があり、そこで料理をとって、畳の部屋で座っての食事となりました。沖縄料理のチャンプル、焼きそば、その他フルーツ、野菜などたっぷりでした。朝からしっかりご飯を食べている女子生徒もいました。部屋点検を終え、予定通りにバスに乗り込みました。

9:00 轟壕到着

天気は曇りで、轟壕に到着しました。到着前、バスガイドさんから、「ガマと呼ばれる地下壕は、沖縄の人にとってはお墓に等しいので、ふざけたりすることは絶対に止めてください。そして、豚のおいもありますが、決して『くさい』などという言葉も言わないで下さい。」と注意がありました。1号車の生徒を迎えてくれたのは高峯典子さんというボランティアのガイドさんでした。退職後、中国の大学に入学して卒業してきた経歴の持ち主で、沖縄戦についての解説が詳しかったです。

沖縄戦は昭和20年3月23日から6月22日まで行われました。その特徴は3つでした。

- 1 本土上陸を防ぐため、水際作戦ではなく(水際作戦をとればすぐに日本軍は壊滅してしまう)、内陸での戦いとなった。
- 2 米軍は沖縄本島とその周辺諸島に約18万の兵力を投入し、日本軍は約11万の兵力でこれを迎え撃った。米軍は兵力の補充があるが、日本軍は現地の青少年等も巻き込み、補充は全くなかった。
- 3 6月22日の沖縄戦終結までの3ヶ月間に、一般市民10万～16万(推定)、日本軍10万、米軍1万2千がその生命を失った。一般市民の犠牲が、軍隊のそれを上回っていたのは、この戦争の1つの特徴であった

高峯さんからお手伝いの生徒3名(加藤健斗

さん、藤林奏羽さん、佐々木悠哉さん)が選ばれ、いよいよ壕の中に懐中電灯をつけながら入りました。最初は、外の明かりが壕の道を照らして見えていましたが、中に入るに従って、ほとんど光りのない世界でした。生徒3人がともしてくれる明かりが無ければ前に進めない状態でした。いよいよ全員が奥まったところに到着しました。そこで、明かりを消して、1分間の黙祷を捧げました。全くの暗闇でした。聞こえるのは地下水の音だけ。加藤健斗さんの60を数える時間の長いこと長いこと。

その後、高峯さんから、この壕の中での生活、どうやって米軍から逃れていたか、そして脱出した方法について詳細に20分ほど説明がありました。

印象的だったのは、日本兵が壕の中に入って来たことでした。泣く子ども(3歳くらい)に黒砂糖を与えていたおばあさん家族(3歳、8歳とおばあさん)に兵隊が来て、「何で子どもが泣くの？」と聞いたら「お腹がすいて、黒砂糖をほしがるのです。」とおばあさんは答えました。「何、黒砂糖？それがあるなら寄せ。」と言って、おばあさんから兵隊が黒砂糖を取りました。そうしたら、おばあさんとお兄ちゃんが「それは僕たちの砂糖だ。」と言って騒いだのです。兵隊はおばあさんの胸に向かって拳銃を撃ち、おばあさんを殺してしまいました。戦時下では、兵隊に刃向かう民間人を殺してもよい、というルールだったようです。もう一つは、生まれたばかりの赤ん坊を抱いたお母さん、食べる物が全くありません。お乳が出ません。ついに赤ちゃんは餓死してしまいます。その子どもを壕の中に埋めました。戦後、このお母さんは生き残りましたが、心残りだったことは「自分の子どもの死に顔が見られなかったこと」述懐したそうです。

壕を出てから、再び壕の入り口で、高峯さんから沖縄戦の話を聞きました。最後に、感想発表となりました。鈴木悠貴さん、鈴木隼さん、佐々木萌李さん、武藤緋色さんが、自分の考え～平和の大切さ、戦争が起こってはいけないこと、民衆の悲しみなど～を立派に述べてくれました。

10:20 ひめゆり平和祈念資料館

ひめゆりの塔は入り口にある石碑でとても小さなものでした。壕の右側に塔があり、後ろには、沖縄師範学校女子部と沖縄県立第一高等女学校の女子生徒及び職員総計240名(教師18名・生徒222名)の名前が彫られた石碑がありました。

沖縄戦のために組織された看護部隊でしたが、理不尽にも戦局が絶望的になると、6月18日、学徒隊は解散を命じられたのです。その後の事を生き残った方々がフィルムの中で話していました。

「死んだ人が損をした、生き残った人が得をし

た、そんなものではない。自分たちは、何をどうすればいいのかわからなかったし、ひたすら逃げることだけだった。泣いている赤ちゃんを見捨てて、死人の上を踏みつけて逃れた。」

「自分たちは壕の中にいたのですが、出たら米兵に撃ち殺される、中にいたら手榴弾を入れられて爆死する、どうすることもできませんでした。壕の中から飛び出して、飛びした友達が目の前で打たれて死んで、私はその打たれた友達の間でなんとか生き残りました。」

生徒一人一人の写真があり、髪型によって何年生かが分かる仕組みになっていました。

11:30 「でいご」昼食・買い物

予定時間よりも早く着いたので、11時半まで買い物をしました。11時半から昼食。メニューは、ソーキ蕎麦に、ジュウシー(五目ご飯)、フーチャンプル、島豆腐、もずくでした。すべて沖縄の郷土食でした。その後、買い物を行いました。この間、糸満市の教育長さんと教育指導部長さんが私たちを激励訪問してくれました。それぞれがお互いのお礼を述べて写真に収まりました。

13:30 サンマリーナビーチ到着

マリンスポーツ担当の方から「3つの活動を予定していましたが、海の様子と天候により、ジェットスキーとシュノーケル活動の二つにします」と告げられました。

13:45 開校式

開校式で、説明があり、その後、ウエットスーツに女子から着替えました。

男子は、ジェットスキー、女子はシュノーケルをはじめました。ジェットスキーというのは、海のスノーモービルのような感じで、インストラクターの運転手1名と生徒2名が乗り、10分間に渡って海上を走ります。ものすごいスピードが出て、まるでスキーのモーグルを思わせる乗り心地でした。波のギャップが大きく、ジャンプしながら進むので、しぶきが顔面にもろにぶつかります。左顔面は目を開けてられないほど、しぶきがあたり、モービルがジャンプするので前の人のライフジャケットをしっかりとつかんでいないと海に投げ出されます。6台のモービルが一斉に海上を走る様子は、カッコイイ!の一言でした。

続いて、シュノーケルを頭に付け、海中探検です。足びれをうまく使うと、波に負けずに進むことができます。強風と前日の雨のため、やや濁った海でしたが、それでも小魚や珊瑚が見えました。結構な距離を泳いで、陸に上がったときは、その寒さに震えました。ウエットスーツを脱いで、温水シャワーで塩を取り、温かいお茶をもらったときの快感は何物にも代え難い喜びでした。

閉校式では、本校生徒のあいさつのよさ、活動のメリハリのよさをほめられました。

17:30 AJ恩納ビルリゾートホテル到着

このホテルは、部屋のドアが外との区切りになっているようなタイプで、マンションのような作りでした。

18:00 夕食（BBQ：バーベキュー）

1階レストランで、ニューージーランド牛、鶏肉、ウィンナーなどがテーブルに置かれ、バイキングでは沖縄風焼きそば、野菜炒め、コーンスープ、ご飯を自分で取って食べる方式でした。BBQで出る煙りがすさまじかったです。

18:30 島唄ライブ・エイサー鑑賞（屋外）

2階小ホールで、現地デュオ「コジャコ」（男女各1名）による歌の演奏、そしてその後エイサーのグループによる太鼓と踊り（エイサー）を鑑賞しました。どちらのグループも、参加型の演奏会で、手拍子あり、一緒に歌あり、そして一緒に踊りがありました。アンコールも出て、大いに盛り上がりました。

演奏会終了後に、宅配便の受付が始まり、購入したおみやげを送るために段ボールを部屋に持って行き、それにおみやげを入れてフロントまで持ってきました。

消灯は10時半、その前に沈没した（眠った）班も、この日は多かったようです。

□第3日目 3月14日（金）

6:30 起床 7:00 朝食バイキング

「寝た、寝た」という声が、あちらこちらから聞かれました。生徒たちは熟睡したようです。

朝食バイキングの内容は、チャムブル、スクランブルエッグ、ウィンナーソーセージ、ベーコン、納豆、鮭、フルーツ、パン、ホットケーキ、コーヒー、ジュース、牛乳、みそ汁、ご飯とありましたが、ホットケーキに人気がありました。

8:00 ホテル出発（バス）

9:30 美ら海水族館到着（記念撮影）

美ら海水族館でやっと沖縄の天候と思われる日差しを浴びましたが、風が強くて、寒い感じを受けました。

ジンベエザメのジンタ君オブジェの下で学級写真を撮影しました。その後、思い思いに水族館見物を楽しみました。入館してすぐ触れることができる海の生き物に、タッチしている生徒が多数おりました。水温は21度でとても温かったです。

深海魚を見たり、アクアロードでジンベエザメを見たりと、時間を忘れるくらい海の生き物に集中しました。

10時50分にイルカの「おきちゃんショー」を見学するためにプールがある屋外ホールに集まりました。イルカショーでは、イルカがジャンプしたり、ヒレであいさつしたりと、よく訓練されていました。大きな拍手とともに、イルカショーが終わりました。

11時30分 美ら海水族館出発

美ら海水族館を11時半に出発し、お弁当をバ

スの中でいただき、13時15分頃に那覇空港に着きました。荷物検査を終え、飛行機に乗り込むのに10分遅れ、出発まで都合45分間遅れました。仙台空港には午後5時過ぎに到着。再び、弁当をいただき、その後、長者原のICに一度だけトイレ休憩して、学校には午後9時5分過ぎに到着しました。

校庭は、保護者の生徒を待っている保護者の皆様の車で満杯でした。バスから荷物を下ろし、多目的ホールに集まり、解散式を始めました。

21:15 解散式

はじめの言葉に始まり、感想発表は、本間蒼さん、嵯峨千優さん、本間紗斗さんの3名でした。3名とも、修学旅行が楽しかったこと、無事に77名の生徒が帰ってこられたこと、そして、この旅行ができたのは、保護者の皆さんそして先生方のおかげです、ありがとうございました、と力強い感想がありました。

団長からは、轟豪で感想を聞かれた4人の生徒の発表の素晴らしいこと、そしてマリンスポーツ体験をした後に、代表の方から「西仙北中学校の生徒は、返事が素晴らしくて活動を進めるのに、とても助かった。あいさつがよいと、説明する方も助かります。」とほめられたことの紹介がありました。

添乗員の池田さん、写真屋の田村さんからもそれぞれ感想がありました。

最後に佐々木航平君が、保護者の皆さんに「ありがとうございました。これからもよろしくお願いします。」とあいさつして、全員がそれになってあいさつをしました。そして解散となりました。

寒い秋田から寒い沖縄へと、貴重な3日間の体験でした。それでも、変化に富んだ豊かな充実の3日間でした。支えてくれた皆さん、修学旅行実行委員の皆さん、ありがとうございました。

修了式で平成25年度が終わります

平成25年度は、どんな年だったのでしょうか。統合2年目、1期生の思いを引き継ぎ、充実の一年間になったと思います。

学習面では、西仙北小学校と連携しながら、生徒の一人一人がどの授業でも集中し、全員参加型の授業ができたと思います。この一年間に、21回の訪問、視察団を受け入れましたが、どんなお客さんが訪問しても、自分たちの授業を淡々と進めた生徒を常に見ることができました。秋田県の課題である「問いを発する生徒」を実現できたのではないかと考えております。

生徒会活動、部活動の活躍、躍進は地域の皆さんにも周知のとおりです。卒業生の思いを更に深く受け継ぎ、再び新しい西仙北中学校が来年できることを祈念いたします。

1年間ご愛読ありがとうございました。